

希望を語る

2000年8月発足

20年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



希望を語る会事務局:健康増進クリニック

TEL03-3237-1777 Fax03-3237-1778

www.kenkou-zoushin.com info@kenkou-zoushin.com

コロナ禍収束を願う

院長 水上 治

最近のコロナ感染者数は明らかに減少傾向で、皆少しほっとしていることと思います。私はスウェーデンの取り組みに興味を持っています。かの地では、50人以上の集まりを避ける程度で、別に3密の禁止などしていないのに、現地の医師からの報告では、重症者や死亡者は増えず、集団免疫ができてきたのだらうと言われています。

「このままだと42万人が死亡する」「密を8割減らせ」と言った教授の発言は、医師の間では、不安を増した、科学的根拠がなかったとかなり批判されています。使ったと言う微分方程式も公開されていません。テレビで恐怖をあおった素人たち（単なるジャーナリスト、あるいはウイルス学者と言ってもウイルス感染学者でない基礎学者等）の責任も問われています。経済の大打撃だけでなく、閉じこもりの弊害で、認知症の悪化や増加、生活習慣病の悪化が顕著になり始めました。癌治療の遅れも心配されます。このままでは、国民全体が不健康になりかねません。

病院は皆、億単位の赤字を抱え、経営に苦しんでいますし、クリニックも患者さん半減はざらで、倒産寸前のところもかなり見られます。当院も患者減ですが、東京のど真ん中で駅から近い地の利を守るべく、スタッフ一同頑張っています。

歴史的に見れば、どんな疫病も必ず収束していきます。この秋にはコロナも更に落ち着くことを大いに期待しています。

ウィズコロナの夏休み

菊地明美さま



今年の夏休みは短い。

娘の小学校で16日間、息子の中学校は期末テスト後の試験休みと合わせて2週間程度である。コロナウイルスの影響で失った授業日数を取り戻すために、本来は夏休みである8月も、子ども達はマスクをして毎日通学している。というような話をフランスに住んでいる姉にしたところ、「さすが日本人だね」と感嘆の声があがった。

フランスも厳しい外出禁止令の下、長い休校からそのまま夏休みに突入したが、例年通り3か月近いバカンスだという。

「だってウイルスは天災でしょ？そんなんでバカンスを削られたらこっちの人は不満が爆発するよ」

確かにコロナは降ってわいた天災である。フランス人はバカンスのために働くといつていいほどバカンスに命を懸けており、自分たちの責任でもないのにそれが削られてしまうのは論外なのだろう。

「みんなあまりマスクもしてないよ。特に若い人は嫌がる。夏なのにマスクなんて暑苦しくて解放感ないじゃない？」

一時期よりだいぶ落ち着いたとはいえ、まだフランスだって終息したとはいえないだろうに大丈夫なの？と思うが、もう以前ほどの恐怖心はなく、慣れてしまったのだろうなあ、と思う。それでも国外に行くのはまだ規制が多く、大多数は国内旅行をする、という話だった。

ウイルスに慣れたのは日本も同じだ。これを書いているのは8月上旬だが、東京都の感染者数は連日200人以上。ニュースを見ていた娘が言った。

「おかしくない？前は100人くらいで大騒ぎしてたのに」

軽症者が多いということもあってか、巷にさほどの緊迫感はない。店も閉まらず休校にもならない。子どもにしてみたら、感染は以前より拡大しているのに、休校期間の穴埋めに学校に通わなければならないのだから、変な話ではある。

国内旅行も自粛の東京都民の私たちは、夏休みの予定は白紙である。結局、ステイホームだったゴールデンウィークとさして変わらない夏休みになりそうだ。

自粛期間の楽しみは、朝ゆっくりできることと散歩だった。散歩は1人だったり、子ども達と一緒にだったりした。家の周りは緑豊かな住宅街で、よそのお宅の綺麗なガーデニングを眺めたり、猫に会ったり、珍しい苗字の表札を探したりしていると飽きない。夏の夕方、少し涼しくなった頃にそんな散歩を日課にしようかと思っている。

9月に感染状況はどうなっているか、世の中はどう動いているのかわからない。「日本人は罰則がなくてもみんなちゃんと自粛するから偉いよね」と姉は言っていたが、それだけで感染拡大を止められれば良いのだけれど。



五行歌

小林美智代さま

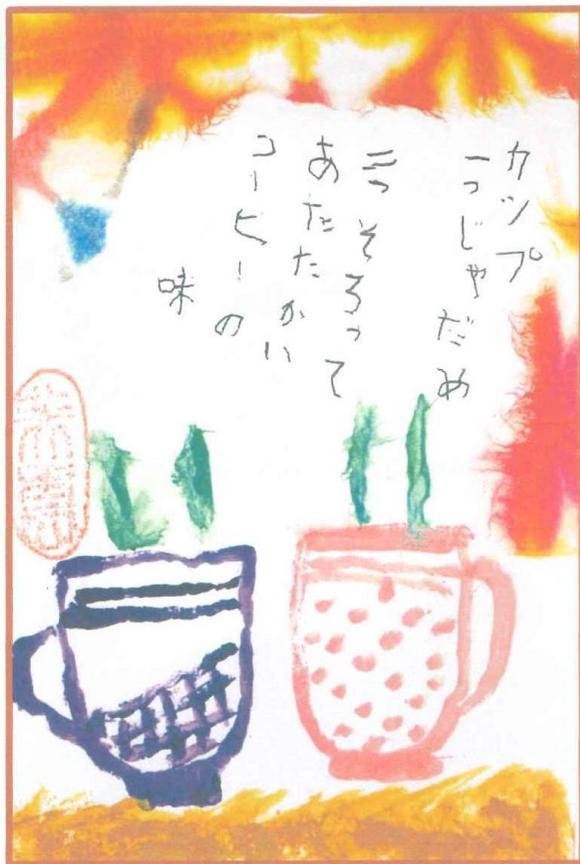
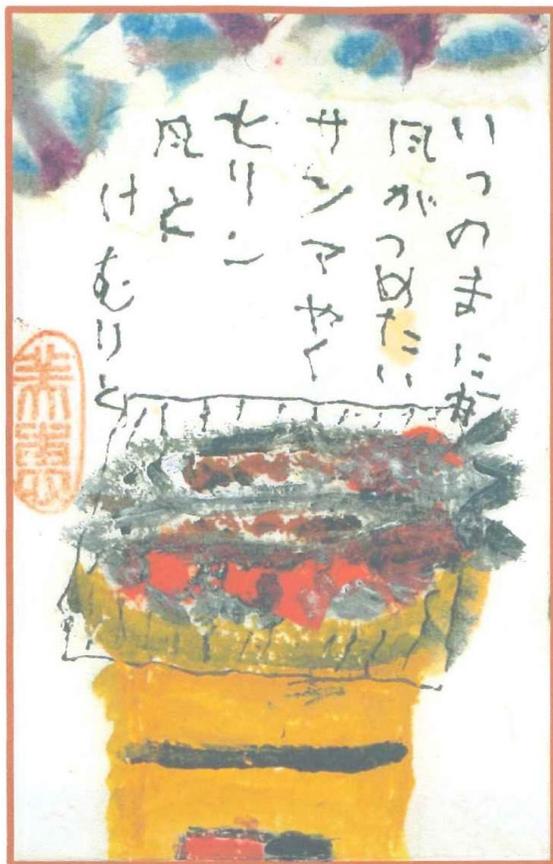
ゆれている
コスモス群の中で
母を想う
初めて知った
洋梨が好きだったことを
貴方をなぐさめたいと
筆をとる
美しい切手を貼って
祈りと共に
送る



つばめの子 S.S

みーこねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま



佐藤様はH7年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24年より当院にて鍼治療を開始しました。加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが、左の麻痺を克服するために、左手で書いています。それを北海道在住の妹さんに送ったところ、とても喜んでくださり、カレンダーにしてくださいました。(待合室のドアのところに飾っています)

《院長と共に癌の勉強会》 水上医師

10/6 (火) ビタミンC 点滴最新情報

クリニックより診療時間変更のご案内

ラッシュを避けて治療予約をなさる方が多いため
8月からの治療時間を下記の通り短縮いたしました

診察時間 10:00 ~ 16:00

治療時間 9:30 ~ 16:30

電話受付 9:15 ~ 16:00



引き続き除菌作業を行いながら診療させていただきます
患者さまにも、マスク着用と手指の消毒のご協力をお願いいたします
ご不便をおかけいたしますがどうぞ宜しくお願いいたします

加藤医師よりお知らせ

2020年5月に「こもればの診療所」を開院いたしました

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします

〒116-0003 東京都荒川区南千住5-21-7-2F (旧 日下診療所)

TEL 03 (6806) 5457 FAX 03 (6806) 5758

info@komorebi-shinryojo.com

<https://komorebi-shinryojo.com/>

※尚、毎週水曜日は今まで通り健康増進クリニックにて診療させていただきます

☆今月のお花☆ガマ・リンドウ・小菊



今年の夏は故郷にも帰らず、我慢の夏休みをお過ごしの方も多かったのでは。そんな中でも容赦ない猛暑。少くくらくらくしてくれてもいいのにとお思いましたが、自然はそんな訳にはいかないですね。

今月のお花は秋の香りをお届けします。紫色のリンドウに小さな小菊。茶色のもふもふとした円柱状の穂をつけるガマ。

ガマは池や沼に群生する水草ですが、茎や葉はむしろや簾に、若葉は食用、花粉は傷薬や漢方としても使われるそうです。日本神話「因幡の白兔」で、毛をむしり取られた兔がガマの花粉の上で転がり、ガマの穂綿に包まったという話もあります。

ガマの花言葉は「素直」「従順」「慌て者」

M.I

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りた事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら、どうぞ事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております